

キャンプ体験が自閉症者の自律性と対人関係に与える影響

増野 美波 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 黒澤 毅

キーワード：療育キャンプ, 自律性, 対人関係

1. 序論

近年、「CAMPING FOR ALL」を合言葉に、全国でいろいろな療育キャンプや訓練キャンプが実施されている²⁾。キャンプは人間教育に対する偉大な貢献の一つ³⁾とされており、キャンプ体験を行うことは創造性を発達させ豊かな人間関係を生み出し、人間形成に貢献する。普段の生活の中であまり外に出ることのない自閉症者にとって、このようなキャンプ体験は大きな変化を与えると考える。速水¹⁾は、自律性は人間関係の形成こそが促進剤であると述べていることから、自律性と対人関係スキルは深いかわりがあることが示唆される。

そこで本研究では、療育キャンプに参加した自閉症者の自律性と対人関係の変化を明らかにするとともに、自然体験効果との関係性について検討することを目的とした。

2. 研究方法

【調査対象者】2012年8月24日～27日に実施された長崎県自閉症協会「年長キャンプ」に参加した12歳から23歳までの自閉症者の保護者27名、担当カウンセラー27名にアンケートを配布した。キャンプを欠席したもの及び不備があったもの等进行分析の対象外としたため、回収率は48%であった。

【調査内容】自律性：首藤⁵⁾の作成した自己主張-自己抑制に関する尺度を筆者が独自に修正を加え2因子18項目で編成した。対人関係：中台⁶⁾の作成した幼児の社会的スキル尺度を筆者が独自に修正を加え2領域5因子18項目で編成した。自然体験効果：谷井⁴⁾が作成した自然体験効果測定尺度を筆者が独自に修正を加え5因子25項目で編成した。

なお、アンケート調査時期を表1に示した。

表1 アンケート調査時期

| | キャンプ前 | キャンプ1日目 | キャンプ2日目 | キャンプ3日目 | キャンプ4日目 | キャンプ後 |
|--------|-------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 保護者 | | | | | | |
| 自律性 | | | | | | |
| 対人関係 | | | | | | |
| カウンセラー | | | | | | |
| 自然体験効果 | | | | | | |

3. 結果と考察

1) 自律性について

自閉症者の自律性について計2回の調査時期における平均値と標準偏差を算出し、Wilcoxonの符号付順位和検定を行った結果、自律性の総得点ではpre-post間に有意な傾向がみられた。因子別においても『自己抑制』因子ではpre-post間にかけて有意な傾向で向上した(表2)。療育キャンプ体験を通して、今までの一定の人との関わりではなく、自然の中で自らを発見し、考え、様々な人との関わりを持つことで、自己抑制能力の獲得が由来、キャンプ後の自律性に変化が現れたと考える。

表2 自律性の平均と標準偏差

| N=13 | M(SD) | | Z値 | n.s. |
|----------|-------------|-------------|-------|------|
| | pre | post | | |
| 自己主張因子得点 | 14.92(2.97) | 15.23(2.89) | -0.57 | |
| 自己抑制因子得点 | 31.00(3.44) | 32.62(5.18) | -1.83 | † |
| 自律性総得点 | 90.69(6.36) | 92.62(7.86) | -1.90 | † |

† p<.10

2) 対人関係について

自閉症者の対人関係について計2回の調査時期における平均値と標準偏差を算出しWilcoxonの符号付順位和検定を行った結果、有意な結果は得

られなかった。カウンセラーとのコミュニケーションを育む場面は多く見られたが、自閉症者間の対人関係を育む場面が少なかったため、対人関係の構築につながらなかったと考える。

3) 自然体験効果について

自閉症者の自然体験効果得点について計4回の調査時期における平均値と標準偏差を算出し、Friedman検定を行った結果、有意な傾向がみられた。また因子別にみると、『自己判断力因子』では有意な差がみられた(表3)。キャンプといった非日常活動の中で、自分自身で考えることや可能性に挑戦するための活動(野外炊飯や長距離歩行など)により『自己判断力』の向上につながったと考える。

表3 自然体験効果の平均と標準偏差

| N=13 | M(SD) | | | | χ ² |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | |
| 自然体験効果得点 | 50.38(16.24) | 52.38(15.70) | 56.15(18.56) | 57.54(19.68) | 7.74 † |
| 自己判断力因子得点 | 16.54(6.55) | 16.69(5.41) | 18.38(6.23) | 19.38(7.26) | 11.07 * |

*p<.05, †p<.10

4) 個別にみた変化について

保護者及び担当カウンセラーの調査が揃っている6名を対象者(A, B, C, D, E, F)に、個別の得点変化とその要因について検討した。対象者A, B, Fは自律性、対人関係ともに向上がみられたが、Dは自律性のみ向上がみられ、C, Eは自律性、対人関係ともに変化はみられなかった。しかし、6名とも自然体験効果は1日目より4日目に得点の向上がみられることから、療育キャンプ体験を通して、自然体験効果が得られたことがうかがえる。

5) 自然体験効果との関係性について

対象者6名を自律性の得点変化から「自律性得点向上群」と「自律性得点変化なし群」に分けた。また、対人関係との関係性について考えるため、対象者6名を対人関係スキル得点から「対人関係スキル得点向上群」と「対人関係スキル得点低下群」、「対人関係スキル得点変化なし群」に分けた。しかし、対象者6名の自然体験効果得点は1日目より4日目が高くなっていることから、自律性・対人関係ともに関係性をみることはできなかった。

4. まとめ

療育キャンプ体験によって自己の欲求や意思を他者との調和のために抑制する『自己抑制』が向上したことで、自律性の向上につながった。また、自然体験効果の向上の要因は、療育キャンプ体験中の自己判断する機会があったことによるものだった。

引用参考文献

- 速水敏彦(1998)：自己形成の心理-自律的動機付け 金子書房 p.177
- 石田易司(2001)：障害者キャンプ プログラムの実際 キャンピング エピルス社 pp.6-10
- 松田稔(2000)：松田稔のキャンプのこころ エピルス社 pp.66-73
- 中台佐喜子, 金山元春(2002)：幼児の社会的スキル 広島大学 医学院教育研究科紀要 第三部 第51部 pp.297-302
- 首藤敏元(1995)：幼児の自己主張自己抑制に関する質問用紙 心理尺度集IV サイエンス社 pp.52-59
- 谷井淳一, 藤原恵美(2001)：小・中学生用自然体験効果測定尺度の開発 野外教育研究5-1 pp.39-47